



第137期 第2四半期

株主通信

2019年4月1日～2019年9月30日まで



トップメッセージ

モノづくりのプロに モノづくりの愉しさを育む

株主のみなさまには、日頃から温かいご支援を
たまり厚く御礼申し上げます。
さて、ここに第137期第2四半期決算の報告を
お届けいたしますので、ご高覧たまりますよう
お願い申し上げます。

代表取締役社長 地引俊為



■ 経営成績

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善などにより設備投資や個人消費が底堅く推移し、緩やかな回復基調が継続しておりますものの、引き続き労働力不足や米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題、日韓関係の悪化などの懸念材料もあり、景気の先行きについては減速懸念を強めつつ推移しました。

このような状況の下、当社グループは全社員を一丸とする企業文化“コーポレートカルチャー”を醸成し、創立100周年(2023年度)にあるべ

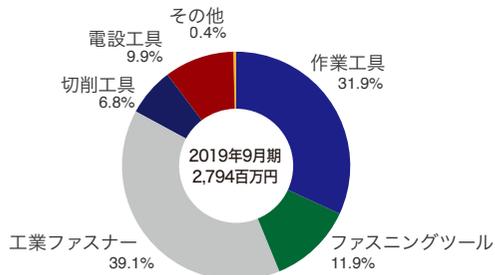
き姿を目指すため、経営ビジョンを「モノづくりのプロに
モノづくりの愉しさを育む」、経営スローガンを「私たちは
工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、
つくる愉しさを伝え広げる事で社会に貢献します」と定め、
その浸透と発信を図り、経営目標達成に向けて努力してまい
りました。また、2019年4月にコーポレートカルチャーの醸成
促進とより機能的な組織体制とすべく、組織改革を実施し、
社長室をコーポレートカルチャー醸成に特化させ、営業部に
営業企画・推進部門を統合させるとともに、取引先別販売

営業成績

区分	133期 (2016年3月期)	134期 (2017年3月期)	135期 (2018年3月期)	136期 (2019年3月期)	137期 通期予想 (第2四半期)
売上高 百万円	5,910 (2,828)	5,762 (2,780)	6,162 (3,038)	6,096 (3,018)	6,130 (2,907)
経常利益 百万円	449 (223)	456 (192)	497 (259)	397 (204)	230 (124)
親会社株主に 帰属する 当期純利益 百万円	275 (137)	351 (122)	310 (165)	245 (120)	140 (67)
1株当たり 当期純利益 円	293.19 (146.08)	374.56 (130.56)	332.13 (177.05)	262.55 (128.67)	149.90 (72.20)

(注) ()は第2四半期の数値であります。

金属製品事業における品種別の売上高構成品

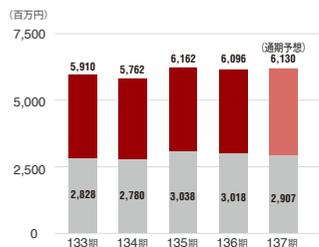


(注)2017年10月1日付で普通株式10株につき、1株の割合で株式併合を実施しております。
第133期の期首に当該株式併合が実施されたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

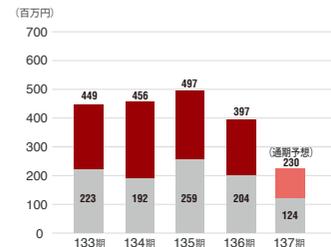
チャネル展開を加速すべく e ビジネス推進部門を新設しました。また、顧客満足の充実を図るため、カスタマーサービス部門を独立させました。そして、将来を見据え、金属製品事業では生産設備の拡充並びに人的な投資・充実を、レジャー事業ではサービス向上に向けた設備投資を計画的に進めてまいりました。

その結果、概ね当初予想の想定内で推移してお

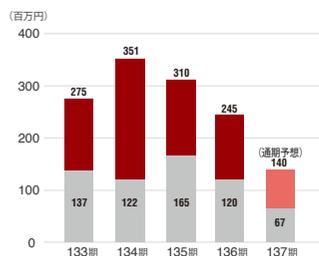
売上高



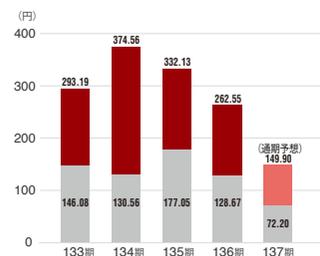
経常利益



親会社株主に帰属する 当期純利益



1株当たり当期純利益



■ 通期
■ 第2四半期

りますものの、売上高は前年同期比3.7%減の29億7百万円(前年同期30億1千8百万円)となり、利益面では減収影響に人件費増も加わり、営業利益で同34.1%減の1億5千万円(同2億2千7百万円)、経常利益で同39.4%減の1億2千4百万円(同2億4百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益で同43.9%減の6千7百万円(同1億2千万円)となりました。

■セグメント別業績

①金属製品事業

国内売上は前年同期に比べ減少しました。ハンドツール部門ではレンチ類において本締めに迫るプロ仕様を謳った新商品「ハイブリッドモンキレンチX W-ZERO」の投入やOEM製品の回復、堅調な万力類の販売による増加がありましたものの、電設工具及びプライヤ類の低調により減少し、ファスニング部門では工業用ファスナーにおいて新規案件の獲得などがありました。継続案件の工法変更による注文減を補えず減少しました。切削工具部門については拡販努力を行いましたが、継続的な価格競争影響により減少しました。

海外売上についても前年同期に比べ減少しており、ハンドツール部門では主力販売国である韓国の経済環境や流通在庫増加影響により、レンチ類・プライヤ類が大幅に減少しました。ファスニング部門においても米国における流通在庫増加影響により、エアリーベッター等のファスニングツールが減少しました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比3.7%減の27億9千4百万円（前年同期29億2百万円）となりました。利益面ではセグメント利益が減収や人件費増により、前年同期比44.6%減の1億円（同1億8千1百万円）となりました。

②レジャー事業

ゴルフ練習場における入場者数はサービス向上や集客施策により前年同期に比べ増加しましたものの、お客様一人当たり売上高は高気温などの天候影響と思われる滞在時間の減少により低下し、売上高は前年同期比2.4%減の1億1千3百万円（前年同期1億1千5百万円）となりました。一方、セグメント利益は減収影響がありましたが、前年同期に実施した設備修繕等の費用が無くなり、同7.8%増の4千9百万円（同4千5百万円）となりました。

株主のみなさまには、変わらぬご支援、ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。

2019年12月

経営ビジョン

モノづくりのプロに モノづくりの楽しさを育む

経営スローガン

私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、
つくる楽しさを伝え広げる事で社会に貢献します



プロ -仕事-

プロフェッショナルの
“モノづくり”の現実を
高品質の工具で支えます



生活者 -趣味-

暮らしの中で
“モノづくり”の楽しさを広げ、
モノづくりの文化を育みます



社員・ ステークスホルダー

「魅力」があり
「誇り」を持てる会社に

プロに 応える

時代の変遷の中で、多様化するニーズに寄り添います。
お客様のご期待に応えるのはもちろん、+αのご提案などを積極的に行います。

楽しさを 育む

“楽しさ”には、モノづくりから生まれる喜びや達成感の意味を含めました。
プロだけではなく、一般の方々にも喜びや達成感を感じてもらいたいと考えております。

トピックス

モノづくりのプロに答える

● ハイブリッドモンキレンチ X W-ZERO

『本締めにも迫るプロ仕様のモンキレンチ』弊社の開発力と技術力を凝縮し、弱点であるガタを最小限に抑えました。



● J-CRAFTシリーズ 第2弾

先端横曲がりラジオペンチ (J150RB) を始めとした4点をラインアップに追加。



JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2019 商品コンテストにて W 受賞いたしました。



日本DIY協会会長賞
ハイブリッドモンキレンチ
W-ZERO

新商品部門(国内出品)
全61点の応募の中、受
賞いたしました。



ベストヒット賞
ハイブリッドアングラス
ヒット商品部門53点の
うち、イベント会期中に
来場したバイヤーの投
票により選んでいただき
ました。

トピックス

モノづくりの楽しさを育む

JAPAN DIY HOMECENTER SHOW を始めとした、東大阪の地域イベント・阪急百貨店での出展においてワークショップを実施。工具を通してモノづくりの楽しさを伝えております。



▲JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2019



▲15,000本のリベットで、
富嶽三十六景を描きました。



▲東大阪産業フェア

ブランドの認知度向上

NASCAR ドライバーの古賀琢麻選手とスポンサー契約を結び、その活動を応援しております。
「NASCAR(ナスカー)」...National Association for Stock Car Auto Racing(全米自動車競争協会)の略称。
アメリカ合衆国で最大のモータースポーツ統括団体が統括するストックカーレースの総称です。



▲クレイジーケンバンド横山剣氏も応援



古賀選手の応援グッズや
弊社オフィシャルグッズは
下記のサイトをご利用下さい。

OFFICIAL
GOODS
STORE



トピックス

将来を見すえた設備投資



天候の変化に応じて上下させているネットを一箇所ですべて制御できるシステムへ変更しました。天候の変化に即座に対応し、更に安全に営業ができる様になりました。

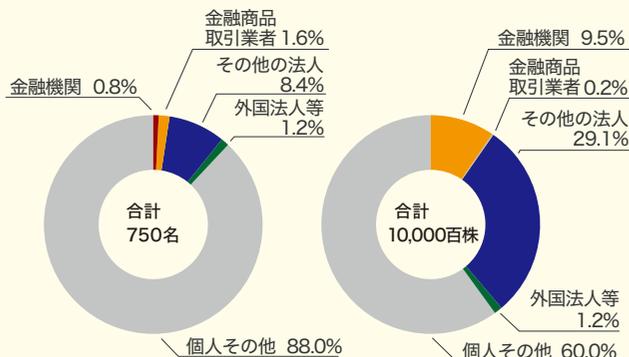


H棟が2019年5月末に新しく完成。製造2グループ(切削工具、圧着工具)の移設が行われました。作業動線の最適化・自動化・ロボット化・AI化・IoT化・合理化・コストダウンを進め、存在価値ある工場を目指します。

株式の状況(2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	40,000百株
発行済株式総数	10,000百株
株主総数	750名

所有者別株主構成比



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ先 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料) (受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)) ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL https://www.lobtex.co.jp/lobtex/ir/ (ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)



株式会社 ロブテックス

〒579-8053 東大阪市四条町12番8号